

全体総括

○計画期間：平成26年4月～令和2年3月（6年）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市は、平成19年5月に第1期となる「山口市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、各種事業に取り組んだ結果、衰退傾向に歯止めを掛け、一定の成果を得ることができたが、いくつかの解決すべき問題点も残すこととなった。

そこで、平成26年3月に認定を受けた「第2期山口市中心市街地活性化基本計画」では、第1期計画から抽出、整理した諸課題について、解決に向けた新たな視座を加え、新規事業を含む44事業に取り組んだ。

まず「一の坂川周辺地区整備事業」では、周辺の文化施設等との回遊性の向上や市民が憩える空間の創出を図り、「中市町1番地区優良建築物等整備事業」では、まちなか居住の促進と共に、中心市街地におけるさらなる魅力の向上が図られた。「黄金町地区第一種市街地再開発事業」では、定住人口の増加、まちなかにぎわい創出、居住環境の改善や中心市街地の防災性及び魅力の向上につながった。また、「山口駅前地区住宅市街地総合整備事業」では、安全で快適なまちづくりが図られるよう事業を進めてきた。

空き店舗対策である「あきないのまち支援事業」では、商店街の空き店舗は削減することができたものの、店舗自体が減少していることから、引き続き中心商店街のにぎわいの創出に取り組む必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】 (基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 地区域)	平成25年度 (計画前年度)	平成26年度 (1年目)	平成27年度 (2年目)	平成28年度 (3年目)	平成29年度 (4年目)	平成30年度 (5年目)	令和元年度 (最終年度)
人口	4,353	4,284	4,372	4,556	4,585	4,523	4,446
人口増減数	-27	-69	88	184	29	-62	-78
自然増減数	-32	-17	-25	-24	-38	-39	-30
社会増減数	7	-52	116	210	69	-22	-48
転入者数	168	168	197	213	198	137	137

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。
(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ① 概ね順調に進捗・完了した ② 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
- ② 若干の活性化が図られた
- ③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

計画した 44事業のうち、11事業が計画期間内に完了、33事業が実施中となっており概ね順調に進捗・完了したといえる。

「一の坂川周辺地区整備事業」では、かつて公設・川端市場や市営住宅があった場所に、植栽を施した多目的広場や観光バス待機所、待合室等を備えた「一の坂川交通交流広場」を整備し、周辺の文化施設等との回遊性の向上や市民が憩える空間の創出を図った。

次に、「中市町1番地区優良建築物等整備事業」では、商業施設や共同住宅、駐車場を備えた再開発ビル(愛称:リュシオル中市)が完成し、まちなか居住の促進と共に、中心市街地におけるさらなる魅力の向上が図られた。また、令和元年度末に竣工した「黄金町地区第一種市街地再開発事業」においては、消防活動が困難な木造住宅の密集地において、共同住宅、店舗・業務施設、駐車場及び外周道路を一体的に整備する市街地再開発の手法により、定住人口の増加、まちなかにぎわい創出、居住環境の改善や中心市街地の防災性及び魅力の向上につながった。

「山口駅前地区住宅市街地総合整備事業」では、老朽した空き店舗の除却による広場整備や狭隘道路の拡幅等による居住環境の改善を図る取り組みで、安全で快適に過ごせるまちづくりを進めてきた。

空き店舗対策である「あきないのまち支援事業」においても、店舗改装及び改修費の支援を行ったことで、商店街のにぎわい創出と空き店舗の市場流通の促進に取り組み、一定の成果を得ることができた。しかし、商店主の高齢化に加え、商形態・業種業態の転換や事業承継がうまく進まず閉店する店舗や、住居と一体となっているため改修や貸し出しが困難な店舗、改修費用が高額のため改修を断念し貸し出しを諦める店舗もあり、店舗数も減少傾向にある。

概ね事業は計画通り進捗し一定の効果が見られた反面、通行量指標のもととなる回遊性や魅力向上への対策が課題となった。

以上のことから、当市における中心市街地の活性化の状況は、若干の活性化が図られたと考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
- ② 若干の活性化が図られた
- ③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

「商店街等通行量(休日)」は、目標達成に至らなかった。しかし、通行量等が減少の一途をたどっているわけではなく、本計画期間内では一定の通行量等は維持できている。これは、優良建築物等整備事業や、市街地再開発事業等による居住人口増加や回遊性の向上が図られた為と推測される。今後は、通行量等と合わせて、中心市街地の関係人口や市民が好んで利用する店舗・スポットを数値化するなど、通行量等だけでは測れない視点での指標設定も望まれる。

「中心商店街の空き店舗数」は、目標値を上回る28店舗となった。近年では、近隣他市には無い特徴的な店づくりを行う30歳代の若手事業者の出店が目立ち、若年層の来街促進を含めた中心市街地の商業面での魅力度向上に寄与するものと考えられる。今後も個店に適した物件紹介や補助金の活用等を、タウンマネージャーと連携しながら、当協議会としても支援していく。

「居住人口の社会増減(5年間の総数)」は、目標値を大幅に上回る465人の増加となった。「中市町1番地区優良建築物等整備事業」および、民間マンションの供給も進んだことが目標達成に大いに寄与し、本年3月に完成した「黄金町地区第一種市街地再開発事業」での更なる居住人口の増加も見込めることから、評価できる。今後は、増加した居住者に、中心市街地内での滞在や消費を促進することなどでの、賑わい創出につなげる取組みを支援していきたい。

「山口駅前地区住宅市街地総合整備事業」は、中市まちなか広場「なかびあ」のオープンや、善福寺・地藏通りにおける道路拡幅に向けた取り組みなどが進められており、密集市街地の緩和等につながるものとする。事業により完成した広場の有効活用が期待される今後についても、各種取組みを支援していく。

「山口駅周辺地区バリアフリー基本構想」に基づいて行われる中心商店街周辺の環境整備は、当協議会内に「バリアフリー専門部会」を設置。また、誰もがいつ訪れても魅力を感じる商店街の形成を目的として「アーケード内建築ルール検討会」を設置し、まちなみ規範の策定協議を行ってきた。今後も各種取組みを支援していく。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
- ② 若干の活性化が図られた
- ③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

①中心市街地に関する市民アンケート調査(令和元年度)

調査日: 令和2年1月22日(水) ~ 2月21日(金)

調査方法: 18歳以上の市民から無作為抽出によりアンケートを郵送

回収数/発送数: 1,310人/3,000人(回収率: 43.7%)

市民アンケート：中心市街地への来街頻度について

	H24	
	総数（人）	割合（％）
ほぼ毎日	47	4.2%
週に2～3回	66	5.9%
週1回	71	6.3%
2週に1回	98	8.8%
月1回	241	21.5%
年に2～3回	313	28.0%
ほとんどいかない	239	21.4%
その他	44	3.9%
計	1,119	100%

R1	
総数（人）	割合（％）
54	4.1%
67	5.1%
88	6.8%
101	7.8%
304	23.3%
341	26.2%
318	24.4%
30	2.3%
1,303	100%

市民アンケート：中心市街地に関する魅力について

	H24	
	総数（人）	割合（％）
強く魅力を感じる	5	0.5%
やや魅力を感じる	132	12.6%
どちらともいえない	285	27.2%
あまり魅力を感じない	509	48.7%
全く魅力を感じない	115	11.0%
計	1,046	100%

R1	
総数（人）	割合（％）
15	1.2%
141	11.7%
298	24.7%
589	48.8%
164	13.6%
1,207	100%

②山口市のまちなか（中心市街地）居住者アンケート（令和元年度）

調査日：令和2年1月22日（水）～2月21日（金）

調査方法：中心市街地に居住する世帯を無作為抽出によりアンケートを郵送

回収数／発送数：435世帯／1,000世帯（回収率：43.5%）

居住者アンケート：中心市街地の住まいの満足度

	H24（前回）	
	総数（人）	割合（％）
満足している	125	29.7%
まあ満足している	195	46.3%
やや不満がある	72	17.1%
不満がある	29	6.9%
計	421	100%

R1（今回）	
総数（人）	割合（％）
126	30.2%
203	48.7%
61	14.6%
27	6.5%
417	100%

中心市街地以外に住む市民の来街頻度「月1回以上」は、前回の平成24年度調査46.9ポイント→今回調査47.1ポイントと横ばいながら、中心市街地の魅力「強く魅力を感じる」、「やや魅力を感じる」に関しては、前回調査13.1ポイント→今回調査12.9ポイントと若干弱含んでおり、中心市街地における都市拠点としての魅力が上手く伝わっていないことが伺えた。

居住者アンケートでは、「現在の住まいの満足度」に関して「満足している」、「まあ満

足している」について、前回の平成24年度調査76%→今回調査78.9%と2.9ポイントアップしており、まちなかに暮らす人の満足度の向上が見られ、中心市街地が生活拠点としての役割を果たしていることが伺えた。

逆に、不満な点については、「住宅や設備の老朽化」や「道路が狭く車が家の前まで入れないこと」、「災害時の延焼や倒壊等が心配」など、個人だけでは改善や対応しがたい意見が多く挙げられた。

6. 今後の取組

本計画における主要事業である「中市町1番地区優良建築物等整備事業」及び「黄金町地区第一種市街地再開発事業」による「まちなか居住の促進」に向けた取り組みや、店舗の改装及び改修に対する支援をはじめ中心市街地の活性化に係る取り組みを推進した結果、居住人口の社会増や空き店舗数の減少については目標値を達成したものの、歩行者通行量等(休日)については目標値を達成することができなかった。

個人の多様性が進展する中、暮らしを豊かなものにする中心市街地として、生活利便施設とともに高次都市機能の集積を図り、人口が減少する中においてこれらの施設を維持するために、イベント開催などによる中心市街地の情報発信に取り組み、市内外からの新たな来街者の増加を図る必要がある。これまで培った生活拠点としての役割に加え、都市拠点としての魅力発信に取り組む。

第2期中活計画に位置づけていた「あきないのまち支援事業」の実施に併せて、まちづくり事業者による店舗運営による空き店舗対策の検討を進める。また、「山口駅前地区住宅市街地総合整備事業」等についても、狭隘道路の拡幅等により、既存ストックの再生によるまちの機能改善に取り組む。

(参考)

各目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	(参考) 目標値の 80%	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
まちに来る人を増やし、楽しんでもらう	商店街等 通行量 (休日)	55,294人 (H24)	58,000人 (R1)	57,460人 (R1)	49,649人	R1.11	C
	【参考指標】 滞在時間(1時間 30分)以上の割合	43.6% (H24)	50% (R1)	48.7% (R1)	44.0%	R1.11	B2
まちの新陳代謝を図り、活力を高める	中心商店街の 空き店舗数	45店舗 (H25)	30店舗 (R1)	33店舗 (R1)	28店舗	R2.3	A
まちの定住人口を増やす	居住人口の 社会増減 (5年間の総数)	168人増 (H20-H24)	250人増 (H26-R1)	224人増 (H26-R1)	465人増	R2.3	<u>a</u>

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b1、b2、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B1 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。また、最新の実績では目標値の80%を達成。)

B2 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

b1 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値の80%を達成。)

b2 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

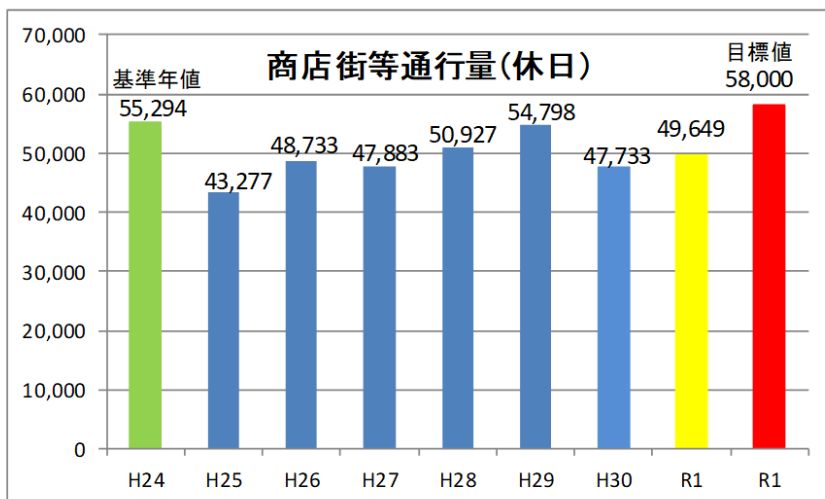
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標1「商店街等通行量（休日）」※具体的な数値目標の考え方…基本計画P59～68参照

1. 調査結果の推移



年	人/日
H24	55,294 (基準年値)
H25	43,277
H26	48,733
H27	47,883
H28	50,927
H29	54,798
H30	47,733
R1	49,649
R1	58,000 (目標値)

※調査方法：11地点に調査員を配置し、通行量調査を実施

※調査月：10～11月

※調査主体：山口市（山口商工会議所へ調査委託）

※調査対象：中心市街地主要11地点の通行者（自転車含む）

2. 目標の達成状況【C】

商店街等通行量の増加に向けた各事業については、主要事業である「中市町1番地区優良建築物等整備事業」は事業完了したものの計画策定時に想定した来客見込みを下回る結果となり、「米屋町東地区優良建築物等整備事業」は事業中止となった。「黄金町地区第一種市街地再開発事業」については令和2年3月末に竣工を迎えたことから、今後の指標の改善が見込まれる。

「あきないのまち支援事業」による空き店舗開店の事業効果は図られたが、商店街等通行量（休日）に係る目標値は達成できなかったため、達成状況は【C】とした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 中市町1番地区優良建築物等整備事業（一般社団法人 山口市中市町1番地区優建事業組合）

事業実施期間	平成25年度～平成27年度【済】
事業概要	商業施設や共同住宅等の整備を行い、中心市街地の魅力の向上やまちなか居住の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） 平成25年度～平成27年度
目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 401人 【最新値】 198人 目標未達成

達成した（出来なかった）理由	施設整備は予定通り完了し1階に3店舗の商業施設が営業しているが、想定された利用者数よりも少なく目標未達成となった。
計画終了後の状況（事業効果）	本事業等の完了により、整備された共同住宅へ68世帯が入居されると共に、アーケードに面した1階に商店街のにぎわいに資する店舗が設置された。
事業の今後について	実施済み

②. 米屋町東地区優良建築物等整備事業（合同会社 米屋町東地区開発）

事業実施期間	平成26年度 ～ 【未】
事業概要	商業施設、デイサービスセンター、サービス付き高齢者向け住宅等の整備を行い、中心市街地の魅力の向上やまちなか居住の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） 平成26年度
目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 571人 【最新値】 0人 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	実施設計まで進捗したものの、テナント交渉等がまとまらず、事業完了に至らなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	—
事業の今後について	新しい地権者において、優良建築物等整備事業を活用せず、別の形での事業展開を検討されることとなった。現在は、民間主体でのマンション建設が予定されている。

③. あきないのまち支援事業（山口市）

事業実施期間	平成20年度 ～ 【実施中】
事業概要	中心商店街内の空き店舗への新規開業希望者に対して、出店時の店舗改装費等の支援を行い、まち全体の魅力向上やにぎわいの創出に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業と一体の効果促進事業） 平成26年度 地方創生推進交付金 平成30年度
目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 2,992人/日 【最新値】 3,048人/日 目標達成
達成した（出来なかった）理由	同事業を活用して44店舗が開店したことにより、目標値を達成することができた。
計画終了後の状況	本事業の実施により、空き店舗が減少し、中心商店街内での

況（事業効果）	回遊性が促進された。
事業の今後について	空き店舗への新規開業希望者に対する店舗改装費の支援を継続する。また、店舗所有者を対象とした店舗改修費にも支援を行う。

④. 【追加】黄金町地区第一種市街地再開発事業（山口市黄金町地区市街地再開発組合）
【平成26年度追加】

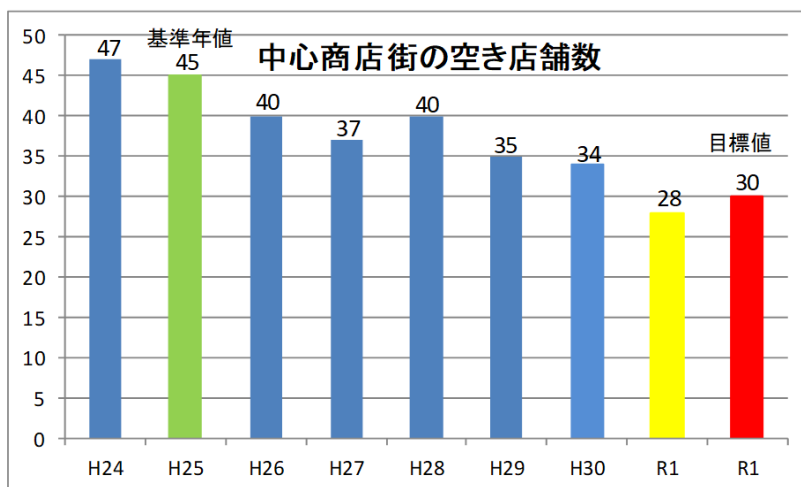
事業実施期間	平成27年度～平成31年度【実施済】
事業概要	老朽化した道場門前大駐車場等の再整備に併せ、共同住宅や駐車場等の整備を行い、まちなか居住の促進やにぎわいの創出、防災性の向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） 平成27年度～平成30年度 防災・安全交付金（市街地再開発事業）等 平成30年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 593人 【最新値】 0人 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	施設が令和元年度末に完成するため、計画期間内の通行量の実績には影響しない。
計画終了後の状況（事業効果）	居住人口の増加や中心市街地における回遊性の促進、緊急車両が通行可能な道路幅員の確保による防災性の向上が見込まれる。
事業の今後について	令和元年度末に施設建築工事が完成。 住宅棟（101戸）は完売し、業務棟（5事業所）も全て契約済みであることから、事業効果の発現を注視する。

4. 今後の対策

中心市街地としての魅力を高め、居住人口の増加による需要増に応えられるよう、まちなかでの回遊を促すイベントや仕組みを実現すると共に、このような情報を中心市街地の居住者及び来街者に対して広く効率的・効果的に発信することで、歩行者等通行量の増加に努めていく。

目標2「中心商店街の空き店舗数」※具体的な数値目標の考え方…基本計画P70～73参照

1. 調査結果の推移



年	空き店舗数
H24	47
H25	45 (基準年値)
H26	40
H27	37
H28	40
H29	35
H30	34
R1	28
R1	30 (目標値)

※調査方法：現地調査

※調査月：令和2年3月末現在

※調査主体：山口市

※調査対象：利用可能な空き店舗

2. 目標の達成状況【A】

「中心商店街の空き店舗数」に向けた事業については、主要事業である「あきないのまち支援事業」を利用したことにより空き店舗への出店が促進された結果、令和元年度は「中心商店街の空き店舗数」については目標を達成したことから、達成状況は【A】とした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

あきないのまち支援事業（山口市）

事業実施期間	平成20年度～【実施中】
事業概要	中心商店街内の空き店舗への新規開業希望者に対して、出店時の店舗改装費等の支援を行い、まち全体の魅力向上やにぎわいの創出に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業と一体の効果促進事業） 平成26年度 地方創生推進交付金 平成30年度
目標値・最新値及び達成状況	【目標値】制度を利用した空き店舗への出店 10件/年 【最新値】年7店舗の出店 目標未達成

達成した(出来なかった)理由	本事業の周知等が十分でなかったため、制度の利用件数は年平均7件に留まったが、本事業を利用していない出店は全体で98店舗あり、45店の空き店舗を28店まで削減することができた。
計画終了後の状況(事業効果)	空き店舗への出店により、中心商店街内でのにぎわいの創出と回遊性の向上が図られた。
事業の今後について	空き店舗への出店件数は順調に推移しており、中心商店街への入店需要は高いことが伺える。 今後は、店舗所有者も対象としたリノベーションや、店舗一体型住居の分離に係る改修費についても支援を拡充するなど空き店舗の解消を促進し、中心商店街の店舗の連続性を確保していく。

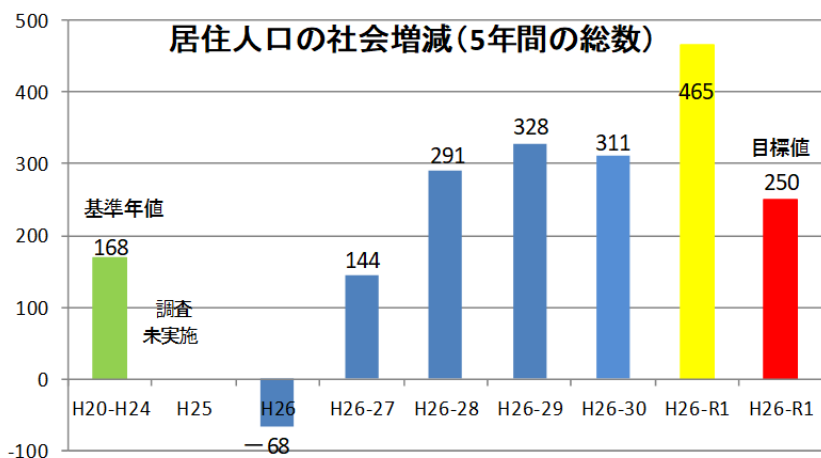
4. 今後の対策

今後は、商店街への出店希望者の相談窓口を受け付ける新規開業に関するサポートセンター事業等を通じて「あきないのまち支援事業」の周知啓発や、新規開業希望者の掘り起こしを行うほか、補助の対象を不動産所有者にも拡大した店舗の改修費の支援についても取り組み、にぎわいの創出を図っていく。

また、まちづくり事業者が長期にわたって空き店舗となっている物件を、マスターリースして改修した後に、テナントにサブリースする「まちづくり事業者による新たな空き店舗対策事業」の取り組みも検討を始め、空き店舗の減少に取り組む。

目標3「居住人口の社会増減（5年間の総数）」※具体的な数値目標の考え方…基本計画 P74～77参照

1. 調査結果の推移



年	人/年
H20~H24	168 人増 (基準年値)
H25	調査未実施
H26	68 人減
H26~H27	144 人増
H26~H28	291 人増
H26~H29	328 人増
H26~H30	311 人増
H26~R1	465 人増
H26~H31	250 人増 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳から前年度の社会増減を抽出
 ※調査月：平成26年4月1日～令和2年3月31日
 ※調査主体：山口市
 ※調査対象：中心市街地内の転入・転出の差

2. 目標の達成状況【a】

居住人口の社会増に向けた事業のうち、主要事業の一つである「米屋町東地区優良建築物等整備事業」については事業中止となったが、「中市町1番地区優良建築物等整備事業」や民間主体のマンション（2棟）の竣工により住宅供給が順調に進んだことから、目標を達成し【a】とした。また、令和元年度末に竣工し101戸の住居が早期に完売した「黄金町地区第一種市街地再開発事業」については、一部入居者の住民異動が反映されているものの、今後の更なる上積みが見込める見込み。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 中市町1番地区優良建築物等整備事業（一般社団法人 山口市中市町1番地区優建事業組合）

事業実施期間	平成25年度～平成27年度【済】
事業概要	商業施設や共同住宅等の整備を行い、中心市街地の魅力の向上やまちなか居住の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） 平成25年度～平成27年度
目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 139人 【最新値】 143人 目標達成
達成した（出来なかった）理由	予定通り共同住宅の整備を終え、入居につながったことで目標達成となった。

計画終了後の状況（事業効果）	商店街のにぎわいに資する店舗の連続性が確保されると共に、68戸の住居整備により居住人口の増加が図られた。
事業の今後について	実施済み

②. 米屋町東地区優良建築物等整備事業（合同会社 米屋町東地区開発）

事業実施期間	平成26年度 ～ 【未】
事業概要	商業施設、デイサービスセンター、サービス付き高齢者向け住宅等の整備を行い、中心市街地の魅力の向上やまちなか居住の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） 平成26年度
目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 100人 【最新値】 0人 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	実施設計まで進捗があったもののテナント交渉等がまとまらず、事業完了に至らなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	—
事業の今後について	新しい地権者において、優良建築物等整備事業を活用せず、別の形での事業展開を検討されることとなった。現在は、民間主体でのマンション建設が予定されている。

③. 【追加】黄金町地区第一種市街地再開発事業（山口市黄金町地区市街地再開発組合）
【平成26年度追加】

事業実施期間	平成27年度 ～ 平成31年度【実施済】
事業概要	老朽化した道場門前大駐車場等の再整備に併せ、共同住宅や駐車場等の整備を行い、まちなか居住の促進やにぎわいの創出、防災性の向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） 平成27年度 ～ 平成30年度 防災・安全交付金（市街地再開発事業）等 平成30年度
目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 212人 【最新値】 201人 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	施設は令和元年度末に完成し、101戸の住戸は完売している。一部の入居者（85世帯：201人）の住民異動しか反映されておらず、残る世帯の転入増加が見込まれる。
計画終了後の状況	本事業の実施により居住人口が増加し、中心市街地における

況（事業効果）	にぎわいが創出される。
事業の今後について	実施済み

●今後の対策

令和2年3月に完成した「黄金町地区第一種市街地再開発事業」の共同住宅の入居により居住人口の更なる社会増が見込まれる。

また、住宅市街地総合整備事業による狭隘道路の拡幅や老朽建築物の除却により、安全で快適なまちづくりを進め、居住環境の改善やまちなか居住を促進する。